

■ 注の解説

*1 スルフォラファンゲルコシノレート(SGS)について

スルフォラファンゲルコシノレートはブロッコリーなどのアブラナ科の野菜に含まれており、解毒作用、抗酸化作用、抗炎症作用などを示すことから、様々な疾病の予防・改善に有効である可能性が多数報告されています。

*2 MPI(Memory Performance Index: 認知機能指数)スコア

米国 Medical Care Corporation および株式会社ミレニアが開発した認知機能検査「あたまの健康チェック®」(The MCI Screen 日本語版)によって算出される認知機能スコア。被検者の微細な認知機能の状態が 0-100 の指数値(MPI: Memory Performance Index)で分かりやすく定量・客観的に観察されます。The MCI Screen およびその日本語版である「あたまの健康チェック®」(The MCI Screen)は、国際的に利用される高次機能検査バッテリーである CERAD や ADAS-Cog の 10 単語想起テストを基に、独自のプロトコルとアルゴリズムを組み合わせ、人口統計学的に認知機能を客観評価するテストであり、FDA(Food and Drug Administration)の新薬治験においてアウトカムスケールの 1 つとして採用されている他、日本でも、2016 年度より開始された厚生労働省事業 IROOP® (Integrated Registry of Orange Plan)においてこのテストが採用されるなど、実績のある評価指標です。

*3 弘前大学 COI-NEXT 拠点

弘前大学では、2022 年 10 月に文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」に採択されました。弘前大学 COI-NEXT 拠点では、健康を基軸に、若者が地域で働きたいと思える成長産業として魅力的なヘルスケア産業を創出することによって、地域の人々を健康にしながら経済発展し、全世代の人々が生きがいをもって働き続けることができ、心身共に QOL の高い状態での健康寿命を延伸する、well-being な地域社会モデルの実現をめざしています。これまでの弘前大学 COI 拠点の成果を発展的に承継し、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指すプロジェクトです。

*4 岩木健康増進プロジェクト

弘前大学が青森県弘前市岩木地区で 2005 年から継続実施している大規模合同健康調査で、約 3,000 項目という世界に例のない膨大な健診項目を設けることで、巨大な健康ビッグデータを記録しています。弘前大学では、2013 年に文部科学省・JST による「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」に採択され、岩木健康増進プロジェクト健診の超多項目健康ビッグデータの解析により、認知症・生活習慣病などの早期発見を可能にし、予防方法の創出と検証を行い、その成果を社会実装する研究活動を弘前大学COI拠点で展開しました。(2013~2022 年)

*5 スルフォラファンゲルコシノレートの健康な高齢者の認知機能に対する二重盲検無作為比較対照試験

Nouchi, R., et al. (2022). "Effects of sulforaphane intake on processing speed and negative moods in healthy older adults: Evidence from a randomized controlled trial." *Frontiers in Aging Neuroscience* 14.